

06デザインデータブック誤植訂正一覧表 平成22年3月現在

章	頁	項目	訂正内容	2006年4月 改訂新版	2008年4月 2版(改訂版)																																																		
1																																																							
2																																																							
3	92	3-2 箱桁のダイヤフラム	(1)ダイヤフラムの形式 ラーメン方式: 誤「 $\rho > 0.4$ 」→正「 $\rho > 0.8$ 」		○																																																		
	111	4-2 高力ボルト	(6)高力ボルトの許容力 M24(F10T,S10T): 誤「11」→正「112」		○																																																		
	113	4-3 トルシア形高力ボルト	(2)トルシア形高力ボルトの質量および塗装面積 注記追加 →「塗装面積の増加はホルトおよびナット凸部表面積から接触部面積を差し引いた増加面積を示す。」		○																																																		
4	119	4-5 普通ボルト	(1)メトル並目ねじの表にてM14の有効断面積: 誤「39.9」→正「115.4」	○																																																			
	121		(2)六角ボルト右表の注2: 誤「M85以上はJIS規格外..」→正「M64を超えるものはJIS規格外..」	○																																																			
	121		(4,2)六角ナット(その2)表の注2: 誤「M135以上はJIS規格外..」→正「M64を超えるものはJIS規格外..」	○																																																			
	121	4-5 普通ボルト	(4,1)六角ナット(その1) 4種ナット図 誤「座の位置: 右(面取側)」→正「座の位置: 左(面取の無い側)」		○																																																		
	128	4-10 Uボルト	注記5)追加 →「A型は1種ナット4ヶ、B型は1種ナット2ヶ、C型は1種ナット2ヶ、3種ナット2ヶを含む」		○																																																		
	132	4-12 溶接記号の記入法	(b)補助記号 備考「深傷」→「探傷」		○																																																		
5	152	5-2 関係法令および許可申請	(6)主な車両の積載荷姿図および許可範囲図 6)低床式セミトレーラー許可範囲 断面図および寸法 : 誤「2650、1150」→「2950、850」		○																																																		
	172	6-3 鋼板、ステンレス鋼板	(2)鋼板の板厚、幅、長さ(製造可能範囲の例) 幅2601~2800、厚さ90.1~95.0: 誤「1」→正「13」		○																																																		
	179	6-4 形鋼、軽量形鋼	平鋼(JIS G 3194) 単位質量 9×65 4.50→4.59、9×100 7.08→7.06		○																																																		
	181	6-4 形鋼・軽量形鋼	外法一定鋼 800×250×14X22: 誤「 $I_y=6530$ 」→正「 $I_y=5750$ 」	○																																																			
			外法一定鋼 800×400×16X25: 誤「断面積=332.8」→正「断面積=322.8」	○																																																			
	184	6-5 鋼管、角型鋼管、ステンレス鋼管、ガス管、電線管	断面二次モーメント 誤記修正 外形558.8×16.0 $101 \times 10^2 \rightarrow 10^3$ 、外形600.0×14.0 $111 \times 10^2 \rightarrow 10^3$ 、外形600.0×16.0 $125 \times 10^2 \rightarrow 10^3$		○																																																		
6	193	6-7 棒鋼、スタッド、線材、PC鋼棒、ソケット、ワイヤクリップ、ターンバックル、シャクル	(2)スタッド 質量表 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="2">H(mm)</th> <th>80</th> <th>(90)</th> <th>100</th> <th>(110)</th> <th>(120)</th> <th>130</th> <th>(140)</th> <th>150</th> <th>200</th> <th>250</th> <th>重量算出式</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">d</td> <td>19φ</td> <td>227</td> <td>249</td> <td>271</td> <td>293</td> <td>315</td> <td>337</td> <td>359</td> <td>381</td> <td>491</td> <td>601</td> <td>2. 2H+51</td> </tr> <tr> <td>22φ</td> <td>295</td> <td>325</td> <td>355</td> <td>385</td> <td>415</td> <td>445</td> <td>475</td> <td>505</td> <td>655</td> <td>805</td> <td>3H+55</td> </tr> <tr> <td>25φ</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>465</td> <td>504</td> <td>542</td> <td>581</td> <td>619</td> <td>658</td> <td>851</td> <td>1044</td> <td>3. 86H+79</td> </tr> </tbody> </table>	H(mm)		80	(90)	100	(110)	(120)	130	(140)	150	200	250	重量算出式	d	19φ	227	249	271	293	315	337	359	381	491	601	2. 2H+51	22φ	295	325	355	385	415	445	475	505	655	805	3H+55	25φ	—	—	465	504	542	581	619	658	851	1044	3. 86H+79		○
H(mm)		80	(90)	100	(110)	(120)	130	(140)	150	200	250	重量算出式																																											
d	19φ	227	249	271	293	315	337	359	381	491	601	2. 2H+51																																											
	22φ	295	325	355	385	415	445	475	505	655	805	3H+55																																											
	25φ	—	—	465	504	542	581	619	658	851	1044	3. 86H+79																																											
	194	6-7 スタッド	M27の直径d1: 誤「22.1」 → 正「25.0」		○																																																		
	201	6-8 ワイヤロープ、平行線ケーブル (HP資料の修正)	(1)ワイヤロープの分類: 誤「HiAmアンカーケーブル」→正「SPWC-FRアンカーケーブル」 06改定ミス⇒SPFCになっている (1)ワイヤロープの分類: 誤「DINAアンカーケーブル」→正「SPWC-CMアンカーケーブル」 HP中の補足資料も「HiAm」→「SPWC-FR」、「DINA」→「SPWC-CM」に読み替える。 「HiAm&DINAアンカーケーブル」→「SPWCセミパラレルワイヤケーブル」	○ ○ ○ ○	○ ○																																																		
	216	7-1 塗装計画	(8): 誤「塗装における使用条件」→「塗装における使用禁止条件」		○																																																		
	217	7-2 塗料の規格	(2)塗料の使用量と標準膜厚、有機ジンクリッチペイントの1行目標準使用量: 誤「—」 → 正「300x2」 (2)塗料の使用量と標準膜厚、有機ジンクリッチペイントの3行目標準膜厚: 誤「—」 → 正「30」	○ ○																																																			
	219	7-3 塗装系	(2)塗料の使用量と標準膜厚、無溶剤形タールエポキシの適用基準: 誤「新便覧: ○」 → 正「新便覧: 空欄」 (1)日本道路協会C-5の無機ジンクリッチペイントの塗装間隔: 誤「1日~10日」→正「2日~10日」	○ ○																																																			
	231	7-3 塗装系	(1)日本道路協会D-6の長ばく系ETCHINGプライマーの塗装間隔: 誤「6ヶ月以内」→正「3ヶ月以内」	○																																																			
	235	7-4 溶融亜鉛メッキ	(11)鋼橋の塗装塗り分け区分の例 3)RC床版箱桁(1) 桁端部内側: 誤「I」→「IまたはD6」 (3)JIS規格(JISH8641) 注1): 誤「3.2mm」→正「6mm」(2007JIS反映)		○ ○																																																		
	250~ 252	8-1 連続梁の影響線	たわみの影響線表(単位追加): 誤「 l_3/EI 」→「 l_3/EI $l(m)$ $E(KN/cm^2)$ $I(cm^4)$ 」		○																																																		
	253	8-2 連続梁の不等沈下...	(2)3径間連続梁の不等沈下による支点反力、1:1:1の表1行目左端の数値: 誤「0.600」 → 正「1.600」	○																																																			
	258	8-4 平面および立体図形の諸量	(2)立体図形の諸量 斜截とう体: 誤「n」→正「n=3」 立体図の修正 h4は削除し、三角斜截とう体図に変更		○																																																		
8	259	8-4 平面および立体図形の諸量	(2)立体図形の諸量 「 ψ は底面の円の中心と立体の切り口の頂点を結ぶ線と底面の円の中心と立体の切り口の2等分線がなす底面上の平面的な角度」		○																																																		
	263	8-7 梁の公式	単純梁の中央付近に等分布載荷: $y1$ の第1行目内 誤「 $(l-s-\lambda/l)$ 」 → 正「 $(l-s-\lambda/2)$ 」		○																																																		
	274	8-10 ケーブルの公式	上から3段目、水平力Hのルート内 「(3-4K)→(3-2K)」 上から4段目、水平力Hのルート内の一番右の「 $(1-2K)^3 \mu^2 \rightarrow (1-2K)^2 \mu^2$ 」		○																																																		